(C)南日本新聞社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

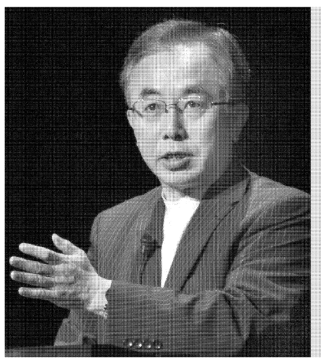
投信フォーラム2015 in 鹿児島
～明日につなげる資産形成 投資信託で～

投資信託のノウハウを学ぶ「投信フォーラム2015 in 鹿児島～明日につなげる資産形成　投資信託で～」が、このほど鹿児島市の南日本新聞会館みなみホールで開かれました。第一線で活躍するファイナンシャルプランナー・神戸孝さんが、資産運用入門者が陥りがちな「誤解」を挙げながら、投資信託による資産形成のコツを解説。林立するファンドの見分け方など個人投資家の心構えを丁寧にアドバイスしました。神戸さんと運用会社専門家との対談も行われ、300人を超す聴衆がNISAなどについて知識を深めました。さらに鹿児島市出身の辛島美登里さんが特別講演し、故郷を思う歌声を披露しました。

長期＋分散投資で豊かな未来へ

投資信託セミナー　**資産運用の基本と投資信託の活用方法**　～NISAの上手な使い方と「良いファンド」・「良くないファンド」の見分け方～

必要なのは「忍耐」「理性」「科学」／時間を武器に資産形成を



FPアソシエイツ&コンサルティング株式会社
代表取締役
ファイナンシャルプランナー
神戸 孝 氏

かんべ・たかし●早稲田大学法学部卒業後、三菱銀行、日興証券を経て、1999年にFPアソシエイツ&コンサルティングを設立。わが国を代表する独立系FPの1人として自ら個人・法人等のコンサルティング、各種講演会、研修会講師などを行う傍ら、全国の独立系FPのための支援ビジネスも展開している。CFP®、日本FP学会会員。日本FP協会理事、金融庁金融経済教育懇談会委員、金融庁金融審議会専門委員、金融広報中央委員会（日本銀行）金融経済教育推進会議委員などを歴任、著書多数。

●資産形成に有用な投資信託

資産運用は「今どの金融商品を買えばいいか」だけを考えて選ぶと、短期スタンスの当てものに近くなり、結果は運次第となってしまいかねません。

まず、ライフプランニングを行いましょう。現在の収入、家族構成、資産を把握し、将来の計画にそって、必要な資金額を把握します。不足を補う手段として、日本人にはまだ馴染みの薄い投資運用はとても有用です。国際比較すると日本の労働所得格差は小さめですが、低金利ゆえに資産所得格差が大きくなっていることに気づくべきです。アベノミクスで株価は倍になりました。買って持っている人は資金が倍になっているのです。

●金融商品3要素に合わせ運用

資産運用する前に、まずご自身の金融資産を三分割します。金融商品には流動性、安全性、収益性の三要素があります。資金の性格によって三つに分けて商品を選ぶのがコツです。

内訳は①半年分の「生活資金」②10年以内に使う「ゆとり資金」③将来に「残す資金」です。①は生活費とローンの合計で、普通預金等のすぐ換金できるものにしておきます。②は旅行、自家用車購入などの資金で、安全性重視のため定期預金や国内債券などが向きます。③が落ち着いて運用できる資金で、リスクはあるが収益も期待できる投資信託やREIT（不動産投資信託）などで上手に運用、お金自身にも働いてもらいましょう。

●投機的行動を捨て長期投資を行う

収益性を求めるにはリスクと付き合う必要があります。ただし「投機」と「投資」は違います。株式、外貨建て商品、REIT、金などの中で有望なものを1つ選び、まとめて購入するのは「投機的行為」になりがちです。マーケットは短期勝負であればあるほどゼロサムの状態に近づきます。情報収集と分析力、資金量が問われプロがしのぎを削る短期決戦の場で、個人投資家に勝機は少ないでしょう。

そんな個人投資家のために生まれた商品が投資信託です。また「時間の裁量権」は個人投資家の大きな武器になります。将来価値が上がりそうなもの、プラスサムになる可能性が高いものを成長性・希少性などから見極めることが「投資」の本質です。

ところが将来価値が上がりそうなものほどリスクが高い側面があります。新興国の株など値動きが大きく安定性に欠けます。そこで長期運用において重要になる複利効果を味方につけるために分散投資を行うわけです。

●ポートフォリオでリスク管理

ここで注意すべきは、もうかりそうなものだけに分散しても「分散投機」になってしまい、複利のマイナス効果を受け大損を招きかねません。慎重に科学的に「分散投資」する。値下がりしそうと予測するものにもわずかでも投資する。そうすることで複利が効果的に働くと、平均リターンが少なくても収益を大きくすることができるのです。

複利は気まぐれです。値上がり時の複利はよいのですが値下がり時に働くと大敗につながる諸刃の剣。だからこそブレ幅を小さくすることが大事です。一般に「リスク」と聞くと「損」や「元本割れ」を想像しがちですが、投資の世界では損得含めて予想できない不確実性、つまり「ブレ幅」を意味します。ブレ幅が小さければリスクは少ないということになります。このブレ幅をコントロールできるのが分散投資の魅力です。

●リスクの有無で商品を分類

まとまったお金の運用において個人投資家に必要な資質は①短期変動を我慢し長期投資する「忍耐」②目先にとらわれず分散投資する「理性」③ブレ幅を小さくする方法を知る「科学」の三つです。

2003年頃までは、日本株と米国債が相反する動きをしていましたが、その後はレバレッジ（信用取引）がマネーマーケットを拡大させ、結果クラッシュが連動しやすくなりました。そのため異なる値動きをするものを比率を変えて組み合わせるポートフォリオ運用がより重要になってきました。大きく負けないための科学的運用です。

金融商品はリスクの有無で大きく二つのグループに分けられます。定期預金や個人向け国債、MRFなどの「無リスク資産」と「リスク資産」です。「リスク資産」は値動きの似たもの（アセットクラス）を集めてさらに細かくグループ分けできます。日本株、日本債券、外国株、外国債券の四つのグループを伝統的四資産と呼びます。近年新しく加わったグループにREITやコモディティ（金等）、MLP（米国エネルギー産業のインフラ投資）などがあります。

●長期運用の王道は国際分散投資

実例で見てみましょう。一年間国内の株と債券だけに分散投資した試算と内外の株と債券に分散投資した試算では明らかに後者に利があります。さらに国際分散投資を10年間続けた例をみると、サブプライムローン問題など世界規模の金融危機を経験してもマイナスになったことはなく、リスクをコントロールできてきたことが分かります。国際分散投資こそが長期運用の王道なのです。

ポートフォリオ作成においては自分のリスク許容度を知ることが大事です。ご自身の退職まで残された期間や資産残高、リスクに対する考え方等をチェックシートで分析し、目標にする収益率を確認します。自分のリスク許容度と目標に応じてリスク資産の組み合わせ比率を変え、トータルで一定のブレ幅のなかに納まるようにします。

モデル例を二つ示しましょう。まずリタイア世代です。インフレに負けない程度の収益率3～4%を目指します。内訳は3分の2が国内外の債券、残りが株とREIT、コモディティ。現役世代は資産形成のためにも、10年で倍を目指したいところ。ならば5割を債券、株式3割、2割がREIT、コモディティという比率がいいでしょう。ブレ幅は前者で15%、後者は25%程度に納まるはずです。

要するに比率を考慮しながら異なる値動きの金融商品をいくつか買い、長期運用を基本とする。少額でも始められ、プロが助けてくれるメリットがある投資信託で、10年以上の「長期国際分散投資」を行うのが王道だとお分かりいただけたでしょうか。

●シャープレシオでファンドを見極める

現在国内には5000本程度の投信があります。この中から良いファンドを見分けられればしめたものです。そのための物差しとして非常に有効なのが、リスクとリターンのバランスを見る「シャープレシオ」です。過去のリターンをリスクで割った数値で、評価会社・モーニングスター社のウェブサイトなどには、大半のファンドのシャープレシオが公開されています。数値が大きいほど低リスク高リターン、つまり運用が上手だったファンドと言えますのでぜひ参照してください。優秀なファンドを組み合わせて持ち続ければいいのです。

一度作ったポートフォリオにはメンテナンスも大切です。1年毎に最初の配分比率に戻す「リバランス」を行うことで、リターンを向上させることが可能です。

正しい知識で賢く選択。投資信託で将来の安心を手にしましょう。

特別講演　**音楽にできること**　～50歳からの生き方～

シンガー・ソングライター
辛島 美登里 氏

慰問先でもらった勇気

人生50年を過ぎました。平凡な家庭に生まれ育ちましたが、振り返ると波風も多かったと感じます。人生初めての挫折は高校受験に失敗したことです。まさか自分が浪人生活を送ると思ってもおらず、先の見通せない世界に一人放り出されたような不安を感じました。音楽デビューも大学卒業後2年を経てからで、将来に不安を感じた当時を今も覚えています。若い時代に得た心の傷ですが、お陰で今は人の悲しみ・痛みに心の底から共感でき、他人の失敗にも親近感を持てるようになったと思います。

デビュー以来、音楽にできるもの、伝えたいものは何だろう、と考えてきました。40歳代に転機がありました。知人の紹介で、罪を犯した人々を慰問するお仕事を頂いたことです。「社会復帰したら、コンサート会場で再会しましょう」。そう語りかけて以来、「あの時の人が会いに来てくれるかも」と期待する自分がいました。慰問を通して勇気づけられたのは自分だったのです。罪を犯しても、償って生きることで、必ず誰かを励ますことができる、そう実感しました。どんな嫌なことがあっても諦めてはいけない、と思います。

もう一つの転機は父の他界でした。生前、言葉数の少ない人でしたが晩年に介護が必要となり、おかげで娘として父と触れ合う貴重な時間を持てました。目に見えない存在になってから、私は心の中で父と会話することが増えています。亡き父に今も支えられています。

世の中には、大きな目標を持ち強い意思で道を切り開いていく人と、人が開いた道をコツコツ歩むタイプの人がいます。私は周囲に支えられて生きていると実感します。声にならない思いを歌詞にし、不器用な生き方しかできずあきらめている人のためにも曲を書きたいと思っています。

からしま・みどり●鹿児島市出身。1989年デビュー。90年「サイレント・イヴ」が大ヒット。95年「愛すること」で第37回日本レコード大賞作詞賞受賞。昨年25周年を迎え、7年ぶりのオリジナルアルバム「colorful」をリリース。「薩摩大使」「おいどんせ霧島観光大使」として故郷のPR活動を担うとともに、霧島高校などへ校歌を提供し子供たちの育成にも携わっている。

NISAで投資の第一歩

大和証券投資信託委託株式会社
ファンド・プロモーション部
ディレクティブ・プレゼンター
鈴木 裕子 氏

対談

ファイナンシャル
プランナー
神戸 孝 氏

鈴木　投資信託会社は金融商品を作り運用する、いわばメーカー的存在です。国内外、社内外からしっかり情報をとり、分析し考えて行動を起こす仕事です。ファンドマネージャーをサポートするため専門家を多く抱えています。個別銘柄を分析するアナリスト、国内外の経済を調査するエコノミスト、情報を集約し投資のアイデアを考える戦略家・ストラテジストなどがグループで動いています。

神戸　手数料がかかる分、専門家がサポートしてくれる仕組みは個人投資家にとって魅力ですね。現在、その専門家たちの間で関心を集めていることをお聞かせください。

鈴木　欧州担当者の一番の関心はやはりギリシャ問題。総じて言うなら、今年後半に予定されるアメリカの金利上昇後、どんな影響が現れてくるか、という点です。

神戸　投資信託残高は100兆円を超え注目される存在です。

鈴木　5月末まで、12ヶ月連続で投資信託残高は増えています。人気があるのは海外REIT、外貨建債券、日本株などで運用する商品です。ただ個人の金融資産総額は1600兆円（※）ですから、国際比較すると投資信託をお持ちの方はまだ少ないと言えます。（※フォーラム後6月29日の日銀公表では1708兆円）

鈴木　来年からNISAの枠が120万円に上がります。毎月10万円ずつの積立もできるようになります。

神戸　NISAは目的によって口座を開くべき金融機関が決まります。株で使うなら証券会社、年金分配型なら銀行、

資産形成なら積立てで利用できるリスクが高めの商品も揃っているところとなるでしょう。来年以降は金融機関が変更できますから見直しのチャンスでもありますね。プロの鈴木さんご自身はどういう運用をされていますか。

鈴木　将来を見据え投資信託がメインで積立も行っています。かつては株式などの売買で、痛い失敗も経験しました。現在、国内に百歳以上の高齢者は5万人いますが、2050年推計は65万人。退職後の生活へ備えるためにも運用の必要性を痛感しています。現在は市場を見ながらタイミングをみて売買する株式などの投資を減らして、将来のために資産形成するお金を増やしています。分配型ファンドは選ばず、複利効果を狙っています。

神戸　今日私がお勧めした長期国際分散投資はあまり楽しくはないと思います。楽しいのは趣味の世界。お金を払う、つまりある程度損をしても仕方ないと割り切りましょう。一方、長期国際分散投資はお金に“働いてもらう”のが目的です。仕事は楽しいばかりではありませんし、労務管理（定期的なメンテナンス）も必要です。楽しむお金は二～三割程度まで、残りは働いてもらうお金としてはっきり区別したほうがいいと思います。

鈴木　投信も売却の見極めが難しいと言われます。値動きの大きい商品は買う段階で20%30%上がったら、あるいは10%下がったら機械的に売却すると目安を決めておくのも方法の一つです。売却に迷われている時には、半分売却する方法もリスクを分散する意味で有効です。

神戸　投資信託は株式投資と違い、ファンドマネージャーが売り買いし中身は入れ替わり続けます。株式投資では売りどきの見極めが大事ですが、投信はファンド自体の見極めこそが最大のポイントです。今日得た知識をもとに、行動に移していただきたいと思います。

すずき・ゆうこ●日系証券会社支店営業を経て、2005年大和証券投資信託委託株式会社に入社。2009年より現職。銀行・証券会社等が開催するお客様セミナーや販売員の勉強会・研修会の講師を務める

◆主催／一般社団法人投資信託協会、南日本新聞社、全国地方新聞社連合会　◆後援／金融庁、金融広報中央委員会、財務省鹿児島財務事務所、信託協会、全国銀行協会、日本証券業協会、日本取引所グループ、不動産証券化協会、共同通信社　企画・制作／南日本新聞社 営業局

明日につなげる資産形成　投資信託で

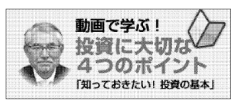
将来のことがとても心配。投資で備えるという話も聞くけれど…

投資信託は、1万円程度からはじめられて、リスクを小さくする分散投資も可能な商品です。
あなたの資産形成に加えてみませんか。

投資信託協会ホームページでは初心者にも わかりやすいコンテンツを公開しています

1 **NISAと出会う6つのコラム**
FPに聞くNISAの賢い使い方や
口座開設体験記など6つのコラムを収録

2 **「知っておきたい！投資の基本」**
投資で大切な4つのポイントを
わかりやすく解説



3 **「知恵を結集して資産を運用する ～投資信託の運用会社に迫る～」**
お預かりした資産を適切に運用するため、
日々奮闘するプロフェッショナルたちの
仕事を映像で紹介

無料　ガイドブックプレゼント
（各1冊セット）

これから投資を始める人を応援する
税制優遇制度「NISA（ニーサ）」についても解説しています。

ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。
（お届けまで2週間程度かかる場合があります。）

〒103-0026
東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル6階　一般社団法人 投資信託協会MI係
※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

投信協会　一般社団法人 投資信託協会　www.toushin.or.jp　投資信託協会　検索